

2017（平成29）年度 社会福祉法人「ゼノ」少年牧場 事業報告

1. 法人本部

1) 重点課題に対する取り組み

(1) 人財確保の取り組み

労働人口が減少することが見込まれており、今現在も従業員を確保できず事業継続が困難な企業が散見されるようになっている。そのような時代に、当法人では54名の採用試験受験者があり、新卒14名、既卒4名の新規採用を行うことができた。

(2) 人財育成の取り組み

① 研修体系の再整備

人財確保を積極的に進めると同時に採用後の育成も重要な役割を担う。そこで、基本理念や基礎知識を身につけるための新任職員研修を通年で実施した。

また、2年目職員のフォローアップ研修を開催し、これまでの実践や業務の中での不安や悩みや喜びを発表し、その思いを共有する機会とした。

② 主任・管理者昇格基準認定試験の実施

- | | | | | |
|---------------|-----|-----|-----|----|
| ● 主任昇格基準認定試験 | 受験者 | 11名 | 合格者 | 2名 |
| ● 管理者昇格基準認定試験 | 受験者 | 5名 | 合格者 | 0名 |

2) 財政状況に関する事項

2017年度の財務状況も安定的だったと言える。各拠点において収入の確保と経費の削減に積極的に取り組むと同時に、施設整備や備品整備にあっても、資金使途計画に基づいて計画的に取り組むことができている。

今後も法人全体で引き続き財務状況の透明性を担保できるよう努めていきたい。

3) 施設整備等に関する事項（資金使途計画に掲げる施設整備積立金取崩額）

- 法人本部 個人所有ホーム（旧あじさいホーム）の精算（6,000,000円）
- 放課後児童サービスセンターらいず 新規開設のための建物改修工事（18,510,000円）
- 放課後児童サービスセンターらいず 新規開設のための初度備品整備（1,330,000円）
- GH（7か所） パッケージ型自動消火設備の整備（26,320,000円）
- 生活支援センターほほえみ 高架水槽取替工事（1,540,000円）
- Homeおおぞら 個人所有ホーム（旧第2ホーム）の精算（6,390,000円）
- かなべの杜 新規グループホーム用地の購入（10,000,000円）
- かなべの杜 新規グループホーム用地造成工事（7,720,000円）
- かなべの杜 自動火災報知設備連動工事（700,000円）
- 認定こども園ゆめな LED照明機器入替工事（1,400,000円）

4) 地域公益事業に関する事項

(1) 未来も笑おうプロジェクトの実施（全20回実施）

- | | |
|---------------|-----------------|
| ● 利用児童：延べ85名 | ● 費用：132,854円 |
| ● 活動職員：延べ111名 | ● ボランティア：延べ118名 |

(2) ハートフルフォーラム・ゼノ2017の開催（11月23日開催）

- 演 題：『ダウン症の娘と共に生きて』
- 講 師：金澤翔子氏（席上揮毫）・金澤泰子（講演）
- 来場者：526名
- 費用：1,426,123円

2. 障害福祉関係事業

1) 障害児入所施設

(1) 「ゼノ」やまびこ学園児童部

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

2017年度は、8月に短期入所を利用する児童が児童部の2階と3階の階段踊り場から転落し、頭蓋骨を骨折するという大きな事故が発生した。幸いにも怪我による後遺症が残ることなく、児童がこれまで通りの生活を取り戻してくれている。この事故は、職員の不注意、確認不足等が大きな要因としてあげられ、防ぐことのできた事故であることから、再度危険のリスクを点検し、職員全員のリスク管理意識を向上させ、大きな教訓として二度と同じような事故が起きないように努力していきたい。

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項

●就学支援

沼隈特別支援学校への通学時引率、学校との連携、参観日などへの参加など就学児童に対する支援を行なった。

●退園へ向けた取り組み

児童及び家族の一緒に暮らしたいという思いを大切にし、こども家庭センター、関係行政、相談支援事業等関係機関と連携し、家庭に戻った後の支援を含めて取り組みを行なった。結果、2名が家庭引き取りにより退園した。1名が他施設へ移行し、1名がグループホームでの暮らしを目指して、短期入所事業を利用することとなった。

●就労支援

高等部の児童に対して、特別支援学校と連携し、就労支援を行なった。

●余暇支援等

クリスマス会、お別れ遠足、体験キャンプ、一泊キャンプ、デイキャンプ
選択行事各種、カープ観戦等の余暇支援を行った。

(単位：名)

療育手帳		年齢分布		就学状況				措置・契約児童数	
①	1	2～3歳	0	小学1	1	中学1	1	措 置	19
A	7	4～6歳	4	小学2	1	中学2	0	契 約	3
②	1	7～12歳	6	小学3	0	中学3	4		
B	9	13～15歳	0	小学4	1	高校1	3		
未所持	4	16～18歳	12	小学5	1	高校2	1	性別児童数	
合計		19歳以上	0	小学6	2	高校3	3	男 児	14
22		合計		合計（※未就学児3人）				女 児	8
		22		22					

③ 職員の配置状況及び人財育成に関する事項

配置基準 4.3：1 に対し、保育士、児童指導員を 13 名配置し、小規模グループ支援を行った。

④ 当面の運営課題

若い職員が増加し、支援力の向上に向けた研修を強化し、将来を担う人材の育成が課題である。また、データをデジタル化して将来に備えることや業務の効率化を図ることが課題である。

2) 障害者支援施設

(1) 「ゼノ」やまびこ学園成人部

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

●人財育成・研修への参加

- ・研修に関しては、特定のものへの参加は促せた。今後は、個々人が目的を持つこと、また、業務内でそれらを深められるよう、環境設定を具体化していく。

●地域との関係性の強化

- ・委員会による自主的な地域清掃や奥組青年団の協力を得て、青年団総会、事前清掃寄の宮大祭への参加等を実施した。
- ・日中活動（木精）による地域児童に対する体験学習の機会、自主作品を通して個展等を実施し、障がいのある人に対する啓蒙活動を継続して実施した。

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項

実施事業		現 員	男	女	平均年齢	利用率
障害者支援施設	施設入所	42 人	35 人	7 人	42.9 歳	—
	生活介護	39 人				96.4%
通所生活介護		17 人	11 人	6 人	47.2 歳	97.7%

※障害者支援施設利用者のうち 3 人は、日中 JOB プラスはんど利用

●地域生活への移行状況

9 月より 1 人の利用者がグループホームへ移行した。

③ 職員の配置状況及び人財育成に関する事項

●職員配置・・・ 支援員及び看護師、調理員など欠員状況が続いている。

積極的かつ新たな募集方法などを模索したい。

●各種委員会・・・ 労働衛生・危機管理・人権擁護・サービス向上・健康管理

環境美化等の各種委員会が主体的に活動を行っている。今後、各々の機能整理を行い、次年度へ繋げたい。

●内部研修・・・ 人権・権利擁護に対する強い意識を持って内部研修が行われた。

また、児童・成人・療育・医療・食育という各専門分野において実践発表を行ない、児童部・成人部で共有する機会を得た。

④ 当面の運営課題

●事業運営

インターネット環境等ソフト面及び設備など環境面の積極的な整備を進める。

●人材確保と育成

- ・主体的な情報収集など、事業所外からの学習機会の推進

●整備事業

- ・老朽化している上水道管の新設。（平成 29 年度より継続）
- ・給食棟の改築に向けた準備、資金の確保

●高齢化及び高度な医療を伴う健康管理

- ・平均年齢も上がり高齢化や難病等日常の健康管理への支援意識を向上する必要性。

(2)「ゼノ」なごみの家

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

●整備事業（個室化、GH建設に関する各種取り組みについて）

- ・利用者の積極的な生活体験及び保護者への説明会などを実施
- ・GH・・・建設用地を確保し、資金計画の見直しとともに建築へと進んだ。次期増築工事に向けて設計・資金計画を具体化させていく。

●上記 整備計画に向けた取り組み

資金計画・運営シミュレーション・職員配置（勤務シミュレーション）などをもとに、入居予定者・保護者との連携を図った。

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項

●定員 40 人 平均年齢（60.1 歳：男性 62.5 歳 女性 57.2 歳）

※利用率：施設入所（98.8%） 生活介護（98.8%）

平成29年度の入院状況（実人数5名 述べ期間は114日）

	病名	人数	延べ期間	病名	人数	延べ期間
内 科	腸閉塞	1名	34日			
外 科	ポリプ切除	2名	4日	大腿骨骨折	2名	76日

食事では、給食部を筆頭に『個人に合った食事作り』をテーマに取り組んだ。刻み食・トロミ食一つ一つにおいて見直しを図った。

今年度は、各部署において事例検討を実施し、アセスメントを始め支援方法を見直した。検討した内容は全体会で発表し、情報の共有に努めた。

③ 職員の配置状況及び人材育成に関する事項

●職員配置・・・生活支援員 看護師など配置基準を下回ることはなかった。しかしながら、数値では充足しているが実際の必要数には足りていない。

●各委員会の強化・・・自治会、環境設備、保健給食、権利擁護、情報管理、OJT、研修各委員会が主体となり、支援環境を整えていくためのテーマや具体的支援の提案など積極的な活動が展開された。

『働き方改革』では、衛生委員会を中心に業務改善に取り組んだ。

●内部研修の強化・・・権利擁護委員会等が主体となりより良いチーム作り、権利擁護の啓発などを積極的行った。また、外部講師を招き、普段の支援を振り返る事のできる機会となった。

④ 当面の運営課題

●整備事業・・・資金計画の見直し・福祉医療機構からの借入・人員配置など総合的な検討。増築工事の申請に向けた動き

●人材確保と育成・・・介護福祉士など有資格者など専門的人材の育成

●高齢化対応・・・事業所見学（高齢分野）などを通じて、業務の見直し、最新機器の導入など対応面を学習していく

3) 地域生活支援事業

(1) 生活支援センターほほえみ

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

- 地域支援（新規ニーズ）の拡充と GH 支援部門の整理
- 共同生活援助事業所（白雲・おおぞら・未来）との連携強化
- 法人内・外の支援調整会議への参加
- 行動護特定事業所加算の取得に係る行動援護会議の開催及び専門研修への参加

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項

- 11 月から支援員の数が増えている。短期入所専属職員を配置することで、10 月までの平均収入が月 80 万→3 月末で月 180 万まで伸びている。11 月以降月の平均 140 万程で推移している。利用希望・登録者数も増えており、受け入れ態勢を強化していく。夜勤者 2 名配置できる人数が揃えば、1 日定員 12 人まで利用することが出来る。現在は配置が難しい為、1 日 9 人までの利用で調整を行なっている。
- 重度訪問介護の収入が大幅に減少している。3 時間未満の支援時間が多く、支援内容も精査する必要が出てきている。重度訪問介護、スポット支援、行動援護などを組み合わせて、手厚い支援を受けながらグループホームでの生活を過ごせるよう提供を行なう。
- 海水浴事故を受け、事故の検討・検証やマンツーマン支援について、外出支援についてほほえみ職員で話し合いを実施してきた。再発防止に向けての取り組み、日々の業務のなにげない支援について意識し、支援について考えることのできる職員集団になるよう取り組んでいく。

③ 職員の配置状況及び人財育成に関する事項

	正規	契約	合計
管 理 者	1		1
従 業 者	7	2	9
受託居宅従事者	2	4	6
サービス提供責任者	3（従業者兼務 1 名） （受託居宅従事者兼務 1 名）		3
従業者（GH 職員兼務）	7		7
生活支援員		3	3
合 計	17	9	26

※資格取得状況 今年度行動援護従事者 2 名取得

介護福祉士	13	行動援護従事者	11	ホームヘルパー2 級	6
全身性移動介護	0	精神保健福祉士	1	区分認定調査員	1
ガイドヘルパー視覚障害	0	保育士	0	社会福祉士	4

④ 当面の運営課題

- 人財の確保（固定給職員・登録ヘルパー）
- 経営の安定
収入の増加だけでなく、人件費の削減を行ないつつ固定給・ヘルパーの数を増やしていく。

(2) ケアサポートひなた

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

● 組織体制の確立

日中事業所やグループホーム、他の居宅介護事業所と連携を深め、利用者の状況や支援内容などを情報共有することで、チーム支援としての体制作りを進めた。

● 収入増に向けた取り組み

兼務者を増やしたことで、支援回数の大幅な増加につなげることができた。

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項

支援内容		2016 年度	2017 年度	契約者数
居宅介護	身体介護	60 回	672 回	6 名
	家事援助	0 回	20 回	1 名
	通院等介助（身有）	0 回	19 回	2 名
	通院等介助（身無）	0 回	0 回	0 名
行動援護		0 回	10 回	4 名
重度訪問介護		0 回	0 回	0 名
合計		60 回	721 回	13 名

- 契約者が 2 名から 13 名と増え、グループホームへのスポット支援だけでなく、在宅の方への支援も開始した。利用に不安を持っている方へも日中事業所の兼務者が支援に入ることによって受け入れやすくなり、利用に結びついている。

③ 職員の配置状況及び人材育成に関する事項

職 種	正規	契約	合計	備 考
管理者	1 名		1 名	兼務
サービス提供責任者		1 名	1 名	従事者兼務
居宅介護従事者	1 名	3 名	4 名	あかつき兼務 3・そよかぜ兼務 1
合 計	2 名	4 名	6 名	

- 専従職員 1 名と兼務者 4 名で支援にあたり、少しずつではサービスの拡充を進められたが、支援の時間帯が重なる為、さらなる支援者の確保が必要となっている。
- 支援技術や虐待防止など外部研修にも少しずつ参加できている。兼務者への研修が十分に確保できていない為、次年度は研修参加の機会を保障していく。

④ 当面の運営課題

● 組織体制の強化

ひなた独自サービスを導入し、サービスでは対応できないニーズへの対応をしやすい体制を整備していく。

● 専門職としての資質向上

利用者の重度化、高齢化に対応できるよう支援技術等を学び、資質向上に取り組む。

● サービスの拡充

兼務者を含めたヘルパーの動きを整理するとともに、新たな支援者を確保し、サービス拡充に努める。

(3)「ゼノ」Home おおぞら

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

- 海水浴事故を受けて、事故の検証と再発防止の取り組みを強化を行なった。家族の希望を確認しながら、付き添いを継続している。
- 畑を活用して、福山市内の放課後等デイサービスと合同でジャガイモの収穫祭を実施した。子どもにも好評で、入居されている利用者も普段関わる事の少ない子どもたちとの触れ合いを楽しめた。
- 見取りに向けて、夜間面での不安（自分の時に亡くなる）などの軽減を図れるよう関係機関と連携強化を図っていく。
- 性支援について、ホーム会議などで話し合う機会を増やした。今年度は利用者が妊娠するケースがあったり、異性との付き合いで支援が必要な場面が増えている。ホーム内で意見を共有しながら、きちんと支援できる環境を継続していく。
- 利用者の「やりたい」「してみたい」を実現する。動物看護師・運転免許証の取得した利用者に、念願の一人暮らしを実現することが出来た。新しい職場、神石高原町の冬と心配事は尽きなかったが、しっかりと生活が出来ている。今後も、利用者のやりたいことを支える職員集団を目指す。

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項

	定員	男	女	平均年齢	障害支援の 区分平均	受託居宅介護 身体介護時間数
Home おおぞら	21 名	7 名	14 名	43.2 歳	3.9	306 時間
Home らん	20 名	15 名	5 名	55.1 歳	4.0	315.5 時間
事業所全体	41 名	22 名	19 名	49.1 歳	3.9	621.5 時間

・ 60 歳以上の利用者数 11 名（介護保険利用者数 6 名）

③ 職員の配置状況及び人材育成に関する事項

	配置基準（常勤換算）		実際の配置		
おおぞら	世話人	10.25	11.80	+1.55	正規 4、固定給 3、 時間給 6、日給 8

・ 今年度資格取得者、行動援護従事者研修 2 人

④ 当面の運営課題

- 海水浴の溺水事故の検証を踏まえ、今後の余暇支援の在り方、利用者の安心・安全を守る職員集団の育成、利用者・家族の意向を確認しながら付き添いの実施。
- 見取りに向けて、継続して取り組んでいく。エンディングノートを活用しながら、それぞれの課題を解決していく。後見人・保佐人手続きの開始。
- 性支援の取り組みの強化。単独事業所での取り組みには限界が見えてきており、法人の中での性についての取り組み状況の情報共有。合同勉強会の実施。

⑤ 施設整備

- （旧）第 2 ホーム購入 642 万円

(4)「ゼノ」Home 白雲

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

- 利用者の将来に備えて、介護保険との併用も行ない、生活全体の安全確保を進めてきた。
- スポット支援を終了した（3名）。その過程で多くの整備が必要となり、かけはしや成年後見制度の利用、障がい者基幹相談支援センター（クローバー）やハローワーク、「ゼノ」からっと等、様々な関係機関と連携を強化しながら実施した。
- 宿直業務以外の業務実態調査を行い、職員の増員や資格・研修を推奨し、働き方改革を進めた。

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項

利用状況（平成30年3月まで）

（単位：名）

ホーム名	定員	現員	男性	女性	備考
白雲	7	5	3	2	サテライト2名終了
第3ホーム	5	4	0	4	サテライト1名終了
Home 虹	7	7	4	3	職員常駐ホーム
第1ホーム	5	5	5	0	
第6ホーム	4	4	4	0	
ホームひだまり	4	4	4	0	
Home 青雲	5	5	5	0	職員常駐ホーム
Home 大地	5	5	5	0	
あじさいホーム	5	5	0	5	
Home 太陽	5	5	5	0	
合計 10ヶ所	52	49	35	14	

利用実績

（単位：日数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
白雲	330	339	330	341	336	329	346	324	304	298	279	310	3,835
虹	597	603	598	608	598	599	616	597	605	604	559	620	7,204
青雲	600	596	589	620	598	593	619	598	610	606	560	617	7,206

③ 職員の配置状況及び人財育成に関する事項

配置基準

（単位：名）

職員の配置基準(常勤換算)				職員配置状況					
利用者区分	人数	世話人(4:1)	生活支援員		管理者	サービス管理責任者	世話人	生活支援員	生活支援員(夜勤者)
区分1	0	12.50		正規職員	3(兼務)	3(兼務)	7	6	
区分2	5			契約職員			2	3	9
区分3	14		1.56						
区分4	13		2.17	正規常勤換算	1.0	1.0	6.4	5.6	
区分5	15		3.75	契約職員常勤換算			7.9	3.0	2.1
区分6	3		1.20	常勤換算合計			14.3	10.7	
小計		12.50	8.67	サービス管理責任者3名(生活支援員・世話人とそれぞれ兼務)					
職員必要人数合計		21.17		看護師(契約)1名配置					

④ 当面の運営課題

- パワーバランスを考え、職員常駐ホーム、利用者の移動などを労務運営会議で検討する。
- 働き方改革において、休憩時間の確保や年休の取得がしにくい、超過勤務などの課題を解決する。
- 人権学習、人財育成、基礎・専門研修受講、専門スキルの向上を目指す。
- 内外の研修会に積極的に参加する。

(5)「ゼノ」Home 未来

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

- 重度訪問介護を利用し、障害の重い方への余暇活動の充実を図った。
- 一人暮らしへ向けての具体的な訓練（調理実習等）を行い、実現につながった。
- 高齢化対策として、ウォーキング、健康器具等を使用して体力作りに取り組んだ。
- 定員 26 名 現員 25 名
沼隈地区：未来 10 名 輝 7 名 松永地区：絆 3 名 絆結 3 名 夢 2 名
- 利用実績 99.6%

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項

- 「地域生活を楽しむ」をテーマに、本人の意思を尊重した個別余暇活動の充実を図った。
また、季節行事や地域活動への参加も行った。利用者の日常生活においても、家庭的な雰囲気意識した支援を心がけ、同時に、高齢化を視野に入れた活動として取り組んだ日々のウォーキングや、健康器具を使用しての体力作りは利用者の日課として定着している。

ホーム名	20~29 歳	30~39 歳	40~49 歳	50~59 歳	60 歳以上	計	男性	女性
未来	1	1	3	5	—	10	10	—
輝	—	—	3	3	1	7	—	7
絆	3	—	—	—	—	3	3	—
絆結	2	—	—	1	—	3	1	2
夢	2	—	—	—	—	2	—	2
計	8	1	6	9	1	25	14	11

③ 職員の配置状況及び人材育成に関する事項

平均年齢：43.2 歳 最高齢:60 歳

職員配置基準（常勤換算）				職員配置状況				
利用者	人数	世話人 (4 : 1)	生活 支援員		管理者	世話人	生活支援員	サビ管
区分 1	0	6.25		正規職員	1	4	5	1
区分 2	2			契約職員		6	6	
区分 3	2		0.22					
区分 4	6		1.00	正規常勤換算	1	4	5	1
区分 5	7		1.75	契約常勤換算		2.3	2.1	
区分 6	8		3.20	常勤換算合計	1	6.3	7.1	1
小 計		6.25	6.17	○強度行動障害支援者養成研修 2 名受講				
職員必要人数合計		12.42		○行動援護従事者養成研修 2 名受講				

④ 当面の運営課題

- 認知症傾向の利用者もおられ、重度・高齢化対策への、職員の育成と支援体制の構築。
- 現在のグループホーム未来としての役割確認及び今後のあり方・整備検討。
- 就労支援の充実を図り、一人暮らし等の地域生活の提案を行う。

(6)「ゼノ」かなべの杜

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

- 今年度は強度行動障害等に関する知識、技術の習得を推進し、専門性の強化を図っていくことが出来た。
- 各様式の統一、個別支援計画の書式の見直しや食費・共益費の整理・精算等事業所内部の様々な整理を行う一年であった。
- 今後利用者の高齢化、保護者の高齢化等親亡き後の支援体制をきちんと考えていく事が求められる。そのような中でも入居している利用者一人ひとりが安心した生活が提供できるように一つひとつ丁寧に対応していきたい。
- 定員 37 名 現員 36 名 利用実績 91.0%
 そよかぜ 7 名 せせらぎ 6 名 こもれば 7 名
 たぴあ 7 名 ゆの 5 名 ひまわり 4 名

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項

- 花見や七夕、バーベキュー、プール、クリスマス会などの季節行事を実施した。その他あかつきやゆめサポート・バクなど日中活動先での余暇活動に参加している。週末帰省が多い為、週末に個別外出を随時企画して、3 名～6 名の小集団での余暇の実施を行った。

	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計(名)	平均年齢(歳)
そよかぜ	-	2	1	3	1	-	-	7	38.71歳
せせらぎ	-	-	2	1	3	-	-	6	47.33歳
こもれば	-	-	2	2	3	-	-	7	44.85歳
たぴあ	-	-	5	1	1	-	-	7	39.28歳
ゆの	-	2	1	-	1	1	-	5	38.60歳
ひまわり	-	-	-	-	2	1	1	4	62.75歳
計	0	4	11	7	11	2	1	36	43歳

※最高年齢80歳

※ 利用者の重度・高齢化の為、医療機関や就労支援機関等の機関との連携強化が課題である。

③ 職員の配置状況及び人材育成に関する事項

職員の配置基準				職員の配置状況				
利用者	人数	世話人(4:1)	生活支援員		管理者	サービス管理責任者	世話人	生活支援員
区分1	0	9.00		正規職員	1	2	4	3
区分2	1			契約職員			8	17
区分3	3		0.33					
区分4	9		1.50	正規職員常勤換算	-	1.20	4.00	2.80
区分5	6		1.50	契約職員常勤換算			5.60	9.45
区分6	17		6.80	常勤換算合計	-	1.20	9.60	12.25
小 計		9.00	10.13	医療連携加算対応看護師(非常勤)配置 重度加算配置+0.1人に対し生活支援員加配+2.12人で配置はクリアしている。				
職員必要人数 合計			19.13					

- サービス管理責任者、児童発達支援管理責任者、相談支援初任者研修、行動援護従事者養成研修、強度行動障害支援者養成研修、介護従事者初任者研修、介護実習指導者研修等、法人としての将来構想を踏まえた上で研修受講を行う事が出来た。
- 働き方改革として、休憩時間を意識して確保するように努めた。

④ 当面の運営課題

- 重度・高齢化に対応する職員の育成と体制の構築
- 重度・高齢化に対応できるグループホーム整備計画実行の為の施設整備補助金の申請
- 公用車の整備に伴う補助金申請

4) 相談支援事業

(1) 相談支援事業所「ゼノ」から

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

● 特定事業所加算の申請・取得

平成 29 年度 10 月より特定事業所加算（1 件につき 300 単位）を取得した。

● 一般相談支援事業（地域移行支援・地域定着支援）の継続実施

単位：請求件数

	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度
障害児サービス等利用計画	4	51	59	53	54
障害児モニタリング報告書	5	53	74	68	53
サービス等利用計画	126	165	222	288	275
モニタリング報告書	27	205	458	533	623
一般相談支援（地域移行支援）	0	0	0	19	6
合計	162	474	813	961	1,011
基本相談	—	21	39	13	30

● 経営安定化

平成 29 年度は予想を超えて 1,011 件の請求を行った。

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項

近年、認知高齢者・高齢者の親と障害者、長期の引きこもり・抱え込みの障害者、長期精神科入院、障害者の出産・育児、手話のできない聴覚障害者、未就学の高齢者など、町内から多くの相談がある。介護保険事業所との連携が取れるようになり、ケアマネージャーと相談支援専門員が意思疎通を行う機会が増えた事で、問題が表面化してきている。現在、地域の障害児・者 147 名（わかば、はんど、ホームを除く）の相談支援を行う中で引きこもりや精神科関連が顕在化している。

③ 職員の配置状況及び人材育成に関する事項

	正規	契約	合計
管 理 者	1		1
相談支援専門員	4（1 人はクローバー出向）		4
事務員		1	1
合 計	5	1	6

新しい相談支援専門員を他の 2 名がよく教育し、3 名で協力してフォローをし合える労働環境が整った。OJT に加えて各種研修会、学習会に多く参加し（25 回）、相談支援専門員の質の向上を目指した。特に人権意識や権利擁護については相談支援専門員の基本である。本や新聞、雑誌などでの学習や福山市のホロコースト記念館や広島市の平和記念公園にも行き、人権学習を行った。また、来談者の精神病名・障害名に対して 1 冊づつ専門誌を読み、薬名の理解も合わせてアセスメントの基礎とした。

④ 当面の運営課題

- 相談員 4 人の体制とし（クローバー出向 1 人は除く）、400 単位の加算を請求したい。さらに平成 33 年度より主任相談員を配置し、500 単位の加算を請求し、増収を目指したい。
- 一般相談支援事業（地域移行支援・地域定着支援）の継続実施。
- 経営安定化に向け、特定事業所加算の変更や新設された加算に取り組む。
- 1 ケース当たり 2 人の相談支援専門員で対応ができるように調整を図る。
- 相談支援専門員の人権学習・視察研修行い、専門的知識、社会福祉援助技術を習得する。

(2) 相談支援事業所はっふ

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

● 関係機関との連携強化

障害関係の事業所だけでなく、地域包括支援センター主催の研修会に参加する中で連携が深まり、高齢の家族への対応も協力して行なうことができた。

● 収入増に向けた課題整理

専従の相談支援専門員の動きが整理され、対応件数が増えたことで収入増につながった。

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項

支援内容	2016 年度	2017 年度
サービス等利用支援	84 件	108 件
継続サービス利用支援（モニタリング）	96 件	148 件
合 計	180 件	256 件
障害支援区分認定調査	22 件	29 件

- 専従の相談支援専門員を配置して2年目となり、日々の業務や聞き取りなどの動きの整理に努めた。整理が進んだこともあり、新規のケースへの対応やモニタリング回数の増加にも対応でき、対応件数が増えている。

③ 職員の配置状況及び人材育成に関する事項

職 種	正規	契約	合計	備 考
管理者	1 名		1 名	兼務
相談支援専門員	1 名		1 名	専従
合 計	2 名		2 名	

- 専従の相談支援専門員を配置して2年が経過し、家族支援を含めたケースへも対応できた。また、からっとや神辺地区の事業所と連携を取りながら支援を行なった。
- 外部研修に参加し、報酬改定後の加算要件である資格取得のための研修受講や相談支援に関する理解に努めた。また、福山市障がい者総合支援協議会の相談支援事業所連絡会や「ゼノ」相談員会議（月1回定例会）に参加し、事例検討や他の相談支援専門員との連携を深めスキルアップを図った。

④ 当面の運営課題

● 専門性の向上及び体制強化

法人内学習会や外部研修への参加を通して、相談支援に係る幅広い知識と技術の習得を目指す。また、からっとと連携を図り、相談支援体制の強化を図る。

● 関係機関との関係強化

法人内の事業所だけでなく、地域包括支援センターとも連携を取りながら、家族を含めた支援体制を築く。

● 報酬改定への対応

個々に必要な支援内容を整理し、モニタリング回数を増やしていく。また、加算の算定条件を理解し、収入増に向けて取り組んでいく。

5) 障害福祉サービス事業（多機能型）

（1）あかつき

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

- 利用者・保護者の高齢化への対応
5年先の生活を想定したサービス内容の検討を定期的に職員全体で行い、方向性を検討している。また、病気や怪我などで生活環境が大きく変わる利用者も増えており、関係機関と連携を図ることで、チーム支援ができている。
- 地域との連携
利用者だけでなく、高齢家族の家族支援のニーズも高まっており、地域包括支援センターと連携を図りながら、対応することができた。

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項（平成 30 年 3 月末時点）

実施事業	実利用 人数	男	女	平均 年齢	障害支援 区分の平均	年間の平均 利用率
生活介護	23 人	13 人	10 人	45.1 歳	5.5	通常：109% 清掃部門 のみ：7.4%
就労継続B型	26 人	15 人	11 人	48 歳	3.5	
就労移行	1 人	1 人		18 歳	3	
事業所全体	50 人	29 人	21 人	47.3 歳	4.6	86.3%

③ 就労支援に関する事項

	部門名	売上目標	売上実績	前年度との差	工賃実績（月額）
部 門	清掃部門	5,495,000 円	5,091,572 円	▲ 406,316 円	28,171 円
	ぱん・菓子製造部門	7,500,000 円	7,053,882 円	▲ 461,871 円	15,319 円
	養液栽培部門	3,348,000 円	3,768,141 円	+ 207,551 円	8,323 円
	ウエス部門	6,200,000 円	6,646,392 円	+ 208,442 円	9,982 円

- 契約先 1 ヶ所を契約解除したが、他の清掃先の作業単価が見直され、結果的に大幅な収益減とはならず対応できた。
- 養液栽培部門の主力商品を単価の高いネギに絞ったことにより、収益増となっている。

④ 職員の配置状況及び人財育成に関する事項

- 職員配置について、各事業における人員配置基準を下回ることにはなかった。
- 人財育成
外部研修 25 件 延 42 名（権利擁護 4 件、資格取得関連 6 件）
内部研修 年間 4 回（ケース検討会 1 回、権利擁護等 3 回）

⑤ 当面の運営課題

- 高齢化する利用者、保護者の将来の生活に対応すべく、関係機関との連携を深める。
- 訪問リハビリを導入し、利用者の機能低下への対応を図る。
- 地域包括支援センターと連携を図りながら、高齢家族の支援も含めた支援体制を確立する。

(2) ゆめの木・わかば

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

●多機能型としての機能を拡充する。

生活介護事業は身体的リスクによる支援の在り方を検討した、就労移行事業は1名の就職を達成した、就労継続B型事業は高工賃を目指すための工賃規程の改定を行った。

●委員会の発足(就労検討・権利擁護・保健環境・将来構想)。

委員会の発足により、活動単位のみでの視野から施設全体をよくするための視野へと広がり、施設全体で取り組むべき課題を検討する機会となった(継続して取り組む)

●施設内の人財育成を行い、支援現場に即した知識を向上させる。

契約職員も含む職員全体でケースに対するグループワークが行えるよう職員全体会を実施する事で、よりわかばの内情に即した研修を行う事が出来た。

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項（平成30年3月末現在）

実施事業(定員)	実利用人数	男	女	平均年齢	支援区分平均	定員に対する利用率
生活介護(20名)	20名	10名	10名	36.7歳	5.8	99.4%
就労移行(6名)	0名	0名	0名	0歳	0	0%
就労継続B型(33名)	42名	30名	12名	46.0歳	4.1	115.9%
事業所全体(59名)	62名	40名	22名	41.3歳	4.9	

③ 就労支援に関する事項

(単位：円)

実施事業別工賃	今年度：平均	各部門別売上	今年度：売上	前年比	前年度：売上
生活介護	11,287円	自主部門	19,358,614	101%	19,157,525
就労移行	33,870円	受注部門	5,855,801	96%	6,106,762
就労継続B型	28,146円	食品部門	3,867,263	94%	4,111,974
事業所全体：平均	24,434円	日中部門	1,588,570	101%	1,565,789

●一般就労実績：男1人（男性1人就労移行より）。

④ 職員の配置状況及び人財育成に関する事項

(単位：名)

実施事業	配置基準（常勤換算）		実際の配置		備 考
生活 介護	生活支援員	11.8	14.4	+2.6	正規 8、固定給 1、時間給 8
	看護師	1	1	±0	頭数で 1 /週 1 勤務：時間給
就労 移行	生活支援員・職業指導員	1.1	2	+0.4	正規 1、時間給 1
	就労支援員	1	1	±0	固定給 1
就労 継続 B	生活支援員・職業指導員	5.5	6.9	+1.4	正規 5、固定給 1、時間給 2
	目標工賃達成指導員	1	1	±0	正規 1

●人財育成：専門的な資格取得及び知識習得のための各種研修へ積極的に参加した。

⑤ 当面の運営課題

●職員にとって働きやすい職場づくりが結果的に利用者支援に反映される施設づくり。

●3つの事業それぞれの事業目的を強化し特色のある事業展開を行っていく。

●全職員が利用者ケースを検討し、支援の在り方を考える事の出来る研修体制を継続。

(3) ゆめサポート・バク

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

- 人権・権利意識の向上では、日頃の支援を振り返る機会を大切にし、マニュアル等を整備する過程を活用し目指すべき支援を確認・共有することに取り組んだ。
- 支援スキルの向上では、その人らしさを大切にしたい支援を実践できるよう各種研修での学びを共有する機会を設け、支援に対する知識と意識を合わせることに取り組んだ。
- 医療との連携では、理学療法士によるリハビリテーションを再開させることができた。
- 就労支援の売上向上では、努力と結果が上手くかみ合わない状況であった。課題を分析し、対策を講じ、同じ失敗に陥らないよう取り組んだ。

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項（平成 30 年 3 月末時点）

実施事業	定員	実利用 人数	男	女	平均 年齢	障害支援 区分の平均	年間の平均 利用率
生活介護	20 人	27 人	23 人	4 人	33.8 歳	5.2	121.1%
就労継続B型	14 人	11 人	6 人	5 人	30.5 歳	3.0	72.1%
事業全体	34 人	38 人	29 人	9 人	32.9 歳	4.1	96.6%

③ 就労支援に関する事項

		部署名	売上目標	売上実績	前年度との売上差額	工賃実績（月額）
部 門	フード	仕出し製造販売	13,200,000 円	12,559,342 円	－461,140 円	19,814 円
		ジェラート製造販売	5,500,000 円	4,545,954 円	－881,681 円	14,219 円
	フライン	ウェス製造販売	13,000,000 円	13,127,480 円	－721,620 円	19,814 円
		日中活動	850,000 円	975,470 円	－72,371 円	5,664 円
	ファーム	自然栽培	1,000,000 円	580,565 円	+177,140 円	14,848 円

④ 職員の配置状況及び人財育成に関する事項

- 職員配置状況については、期中において職員の予期せぬ休職や退職があったが、各事業における人員配置基準を下回ることはなかった。

事業	職種	配置基準	正 規	契 約	合 計	常勤換算
生活介護	生活支援員	13.5	8	11	19	17.6
	看護職員	(1.7 : 1)	—	2	2	
就労継続B型	目標工賃達成指導員	0.3	1	—	1	1.0
	職業指導員	1.4	1	—	1	1.7
	生活支援員	(7.5 : 1)	—	1	1	

- 外部研修 29 件 延 32 人 （権利擁護 3 件、資格取得関連 5 件）

- 内部学習 年間 6 回 （権利擁護 2 回、支援関連 4 回）

⑤ 当面の運営課題

- 事業目的の達成に向けた就労支援における売上目標達成と利用者工賃向上に対する積極的な取り組みと着実な実践。
- 前向きな組織形成のための人財育成（利用者支援と就労支援のスキル）は引き続き、チームの意識を合わせながら取り組む。
- 特に就労B型の利用率低下を改善するための新規利用者の獲得に向けたアプローチ。

(4) J O B プラスはんど

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

- 新規就労科目として、週 4 日午前中に参加利用者 2～4 名での福山市市議会棟の日常清掃業務（掃除機・モップ・雑巾掛け、灰皿清掃など）を開始した。（施設外就労）
- 作業工程評価表の運用を開始し、評価項目の個別支援計画並びに支援との連動が図られ利用者の作業工程のスキルアップに繋がった。
- 新規利用者 3 名の受け入れに向けて定員増（20 名から 30 名）の体制を無事整えた。
- 地域との連携強化として、道の駅イベントへの協力（ステージやテントの貸し出し）や参加を今年も行なった。また、同所前のバラ園の維持管理として草取りを実施した。
- 2019 年度開設予定としている共生型サービスの設置に向けて、活動場所の仮押え等、確実に動きを進めていった。
- 12 月に、利用者も参加する形での普通救命講習を受講した。

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項（2018 年 3 月末時点）

実施事業	実利用者数	男性	女性	平均年齢	障害支援区分の平均	年間の平均利用率
生活介護	13 名	9	4	42.2 歳	5.5	123.6%
就労継続 B 型	14 名	8	6	46.1 歳	4.1	118.7%
事業所全体	27 名	17	10	44.2 歳	4.8	121.2%

③ 就労支援に関する事項

- 過去 2 年の比較とした 2017 年度の工賃実績は以下の通り。金額は賞与も含めた月額平均でカッコ内は利用回数の少ない利用者（週 2 日）の工賃を除外した平均額である。

実施事業	2015 年度	2016 年度	2017 年度
生活介護	4,971 円	6,859 円	8,541 円
就労継続 B 型	4,422 円	6,578 円（6,900 円）	7,968 円（8,949 円）

④ 職員の配置状況及び人財育成に関する事項

	配置基準（常勤換算）		実際の配置		備考
生活	生活支援員	7.6	8.7	+1.1	正規 3、固定給 4、時間給 3
	看護師	1	1	±0	頭数で 1 のため週 1 回勤務の時間給
継続 B	生活支援員	1.7	3.5	+1.8	正規 3（管理者兼務 1）、固定給 1
	職業指導員				
	目標工賃達成指導員	0.4	1	+0.6	正規 1

● 人財育成

心理アプローチ（動機付け）、障害特性、専門的な支援方法（先回り支援とは、ストレンギングス技法とは等）について学習を深めた。利用者の落ち着き等、好循環が出ている。

● 働き方改革

広島県社協が実施する「魅力ある職場づくりのための自己点検ツール」のアンケートを全職員に回答してもらい、ほぼすべての項目で県内平均を上回る好結果であった。その他、年休取得率は全体平均で 60.1%、最も多い職員の残業時間も年 17 時間であった。

⑤ 当面の運営課題

- 共生型サービスの整備計画の確定と実際の整備（2019 年度開設に向けて）
- まずは、平均月額工賃 10,000 円を突破するための更なる収益の向上

6) 児童発達支援事業

(1) 「ゼノ」こばと園・相談支援事業・第2こばと園

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

- こばと園が1978年（昭和53年）に開園して40年、この間こばと園に相談に来られた方は7000人（2018年2月8日）を超えた。
- 「ゼノ」こばと園、相談支援事業・第2こばと園と一体的に、聴覚障害・発達障害（知的障害、自閉症スペクトラム、注意欠如多動症など）とリスクのある乳幼児とその保護者に対し、専門性と人格性に基づいた適切な相談支援、発達支援、家族支援、地域支援を行い、子どもの全面的かつ安定的な発達や生活を図るとともに、保護者・家族が安定して生活ができる様に支援する。
- 給付費収入（補助金事業収入含）はこばと園は前年度より約649万円増、第2こばと園約25万円増、相談支援事業約92万円増で、こばと園全体でみると総収入は前年度より約766万円増、人件費は前年度より約313万円増であり、本部会計からの繰入金は537万円、人件費率は90.1%であった。
- ・ 経営面での対策（利用児数の増、省力化・効率化の検討、節約、寄付・補助金等）
- ・ 人財育成（働き方改革検討委員会の立ち上げ、職員研修の強化、研修会の実施等）
- ・ 防災、危機管理の強化（防災対策の強化整備、児童の安全のための危機管理意識の向上等）
- ・ 施設設備整備（老朽化による建物整備、車両修繕、厨房エアコン・放送設備・聴力検査装置等修理、園児安全対策のため、園庭・駐車場溝にクレーニング敷工事、坂道にフェンス取付工事等）

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項

<2017年度こばと園全体の事業体系>

2018年3月現在（単位：人）

	部 門・対 象		年 齢	内 容
＜児童発達支援センター＞ 「ゼノ」こばと園 (定員 30 人 契約人数 119 人)	園 児	難聴(14・人工内耳 7)	0～5 歳児	週2～3日・親子通園・集団療育と個別療育・併行通園
		発達(41) (知的を含む)	4～5 歳児	
			3歳児(8)	毎日(月～金)・単独と親子(2/週)・集団療育と個別療育(1/月)
	難聴契約相談(20)		0～5歳児	新生児聴覚検査リファール児や重複児等の個別相談検査
	つばめ教室(発達)(42)		5歳児	週1日・親子通園・集団療育(第2こばとに準ずる)
	保育所等訪問支援事業(51) (内園児 42 難聴契約 7 上島 2)		保育所・幼稚園などに訪問し子ども及び職員の支援をする	
＜児童発達支援事業＞ 第 2 こばと園 (定員 20 人・契約人数 120 人)	言語・発達・知的		1～5 歳児	午前 10 人 午後 10 人 毎週1～2日・親子通園・集団療育・併行通園
＜相談支援事業＞ 「ゼノ」こばと園相談支援事業	①障がい児相談支援事業(188 件) 指定特定相談支援事業(2 件)		通所支援利用援助・継続利用援助 居宅介護等利用援助・継続利用援助	
	②障がい児等療育支援事業 (654 人、延 3984 件)		外来療育(個別・集団)、訪問療育(個別・集団)、施設支援 ○ こばと園で行なう相談・教室 (ぼっぱ教室・ぱんだ教室) ○ 因島・瀬戸田で行なう相談・教室(因島・瀬戸田ぼっぱ教室・)	
	③地域療育支援、相談支援		幼通協、市町の委託事業、研修会の開催、講師派遣、生活支援等	

<「ゼノ」こばと園児の状況> (2018年3月) (55人)

☆聴覚障害児 (14名)

(単位:名)

年齢	人数	性別		地域			聴力レベル(dB)					身体障害者手帳							療育手帳				重複障害		併行通園				新生児スクリーニング	新入園
		男	女	福山市	府中市	三原市	60dB未満	60dB以上80dB未満	80dB以上100dB未満	100dB以上	測定不能	1級	2級	3級	4級	5級	6級	未所持	○A	A	○B	B	自閉スペクトラム症	その他	保育所	幼稚園	児童発達支援	人工内耳		
0才児	3	2	1	1	2						3		2		1													2	3	3
1才児	1	1		1							1							1											1	1
2才児	3	1	2	3			2			1					1		1								2			1	3	1
3才児	4	1	3	3		1	1		2	1					4								1		3		1	3	4	
4才児	3	1	2	3			1			2			2					1					1			3		1	3	1
5才児																														
計	14	6	8	11	2	1	4	0	2	4	4	0	4	0	6	0	1	3	0	0	0	0	1	1	5	3	1	7	14	6

☆発達障害児 (41名)

(単位:人)

	年齢	人数	性別		地域		診断名				療育手帳				身体障害者手帳						精神保健福祉手帳			併行通園			新入園
			男	女	福山市	尾道市	自閉スペクトラム症	A D H D	知的障害	聴覚障害	○A	A	○B	B	1級	2級	3級	4級	5級	6級	1級	2級	3級	保育所	幼稚園	こども園	
毎日通園	3才児	8	3	5	8		8																				8
併行通園	4才児	14	13	1	14		12	2(2)	(1)					1									2	11	3		8
	5才児	19	14	5	18	1	13(4)	3(1)	3(4)				1										9	9	1		5
小計		41	30	11	40	1	33(4)	5(3)	3(5)	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	20	12	1	21

() は再掲

<第2こばと園児の状況>

年齢(歳児)	人数	性別		地域別					診断名							療育手帳		精神	併行通園				
		男	女	福山市	世羅町	府中市	笠岡市	ゼノ児童部	自閉症スペクトラ	A D H D	知的障害	発達性運動協調障害	聴覚障害	てんかん・難病な	A	B	3級		保育所	幼稚園	こども園	他事業所	入所施設
1	0																						
2	14	8	6	10	1	1	2		8							1			6		2		
3	22	18	4	22					9	4	1					1			11	6	3		
4	44	32	12	42				2	10	4	1	1			1				29	9	4	(3)	2
5	41	27	14	40				1	15	2	3		2	1回		2	2		25	10	5		1
計	121	85	36	114	1	1	2	3	42	10	5	1	2	1	1	4	2		71	25	14	(3)	3

③ 職員の配置状況及び人財育成に関する事項

- ここ数年でベテラン職員が次々と定年を迎える状況があり、若い職員の雇用と育成が喫緊の課題である。言語聴覚士1人雇用、産休育休中職員3人、体調を崩し病休者も出る。子どもの療育と職員の働き方とをどのようにバランスをとってやっていったらいいのか、悩みが尽きない1年間であった。これから世代交代をしていく上で、いかにして研修と人財育成をおこなうか、療育の質を落とさずに効率化するか、が問われた1年であった。

④ 当面の運営課題

- 職員の雇用、人財育成、働き方改革
- 施設・設備整備 (将来構想に向けての計画、車両の更新等)
- 「ゼノ」こばと園全体の将来構想検討本格化 (こばと・第2こばと・因島瀬戸田地域)

(2) 放課後児童デイサービスセンターぷくぷく

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

新任職員を 2 人配置したため、若い経験の浅い職員が増加したため、外部研修等への参加等、利用者支援に係る研修の充実に努めた。

昨年度に比べ、職員の退職もなく、開所日数が安定し、通所率も向上し比較的安定した運営のできた年度であった。

- 活動日 総開所日数 275 日 通所率 93.2% ※前年度は 267 日 87.4%
- 外部研修への参加 新版K式発達検査講習会、強度行動障害支援者養成研修、行動援護従事者研修、発達協会や人間発達講座が主催する実践研修・人権擁護・虐待防止等の利用者支援に係る研修への充実に図った。
- やまびこ学園との合同で組織する委員会活動において、火災時の避難訓練を毎月実施し、土砂災害時等における避難訓練を 1 回実施した。
- 人権擁護委員会において、虐待防止に係る振り返りチェックシートの実施や虐待による死亡事件のあった事業所におけるその後の取り組みについて学ぶ機会を設けた。

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項

ニーズの高い事業であり、前年と同様登録児童の多い状況が続いている。

- 小学生 47 名 中学生 17 名 高校生 25 名 内、手帳未判定 14 名 89 名
※昨年度に比べ、小学生の登録が 10 名増加した。(中・高校生 10 名減少)
- 療育手帳判定の状況 ①5 名 A20 名 ②21 名 B29 名
- 男児 67 名 女児 22 名

課題遊びと自由遊びのグループに分かれて日々の活動を行なった。また、季節に応じた行事や夏期・秋期・春期の短期療育等を実施した。

- ・課題遊び：調理活動・工作・運動・感覚・ミュージックケア
- ・芋ほり・クリスマス会・節分 お泊り体験・日帰りデイキャンプ・ハイキング

③ 職員の配置状況及び人財育成に関する事項

《職種別の職員配置》

(単位:人)

職種	配置基準	人数		常勤換算後の人数	備 考
		正規職員	契約職員		
管理者	1	1		1	兼務
児童発達支援管理責任者	1	1		1	
児童指導員・指導員	4	3	2	5.4	
保育士		1			

- ・子どもの遊びに関する研修会、発達検査の研修会、強度行動障害支援者養成研修等、職員の支援の質の向上に向けた研修を充実させた。

④ 当面の運営課題

ニーズの高い事業で利用をお断りするケースが多い。ニーズにどのように応えていくか？併せて、支援の質の向上に向けた取り組みを継続することが当面の課題である。また、業務の効率化をどのように進めていくかが今後の課題である。

(3)「ゼノ」こども広場まつなが

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

●安定した事業所運営

開設2年目を終えたが、初年度に比べ登録児童数が16名増加し、通所率も13%増加した。しかし、上半期に利用児童が活動中に大きなけがをする事故が発生した。この事故は、職員間の連携不足が大きな原因の事故であったことから、職員間で話し合いを重ね、安全について深く考える機会となった。その結果、下半期は利用児童に大きなけがはなく、安全かつ楽しい活動ができたと同時に、職員間のチーム力も向上したのではないかなと言える。（開所日数276日 通所率97.8%）

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項

●登録児童数：46名

【自由遊び】

屋内（ホール、プレイルーム、屋上園庭）では、写し絵やすごろく、ブロック、室内ブランコなど児童が好きな遊びをして活動した。屋外では、近隣の公園（福山市松永町周辺、尾道市高須町周辺など）で遊んだり、本郷川（福山市今津町）や松永湾では、魚やカエルなどの生き物を捕るなどして遊んだ。また、夏休み期間中には、屋上園庭にビニールプールを設置して水遊びをしたり、尾道市営プール（尾道市東土堂町）へ行ってプール活動を行なった。

【課題遊び】

以下の4種目を5月～3月まで行なった。

課題遊び	回数	参加人数(延べ)	活動内容
調理	14	76	はちみつなこ、ベビーカステラ、クッキーなど
工作	5	52	光るスライム、振り子描写、はんこ、ミラーボールなど
運動・ゲーム	5	54	尻尾取り、ボウリング、弓矢、水風船、芝すべりなど
感覚	1	11	グルグルイス回し

③ 職員の配置状況及び人財育成に関する事項

《職種別の職員配置》

(単位：人)

職種	配置基準	人数		常勤換算後の人数	備考
		正規職員	契約職員		
管理者	1	1		1	松永東保育所と兼務
児童発達支援管理責任者	1	1		1	
児童指導員	1	1		3.7	1人は常勤であること ※1人加配することで加算
指導員	1		1		
保育士	2	2			
合 計		5	1		

④ 当面の運営課題

●利用ニーズへの対応

放課後等デイサービス事業は、事業所数が増え続けているものの、『待機児童』が多く存在する。そのようなニーズの高い事業であるため、現在も利用を断るなど、利用希望日数を減らすケースが多い。そのようなニーズにどのように応えていくか検討が必要である。

●活動の質の向上

児童を支援する力、児童を見る力を向上させるために、研修などでの学びとフィードバックや、現場での指導を継続していく必要がある。

●新たなニーズへの対応

当事業所は小学生を対象としているため、利用中の保護者より「中学生になってからも利用できる療育の場がほしい」との意見を複数いただいている。また、福山市西部地区の小学生、中学生、高校生の受け入れ先である放課後等デイサービス事業所が少ないため、検討が必要である。

3. 保育事業分野

1) 幼保連携型認定こども園

(1) 幼保連携型認定こども園ゆめな

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

- ゆめな ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく「教育及び保育」の実施環境を通して教育及び保育を行う事を基本として実施した。
 ・幼保連携型認定こども園の役割について、子育て支援活動など利用し情報提供を行った。
- 学童園 ・安全、安心を最優先に考えながら、1年生から3年生の関わりの中で生活できるようにした。

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項

(単位：名)

認定こども園ゆめな			ゆめな学童園		
	4月	3月		4月	3月
1号認定児	23	23	1年	12	11
2号認定児	88	92	2年	26	26
3号認定児	49	59	3年	20	19
合 計	160	174		58	56

子育て支援事業別年間利用延べ人数

(単位：名)

延長保育	3,844	休日保育	234
一時預かり（一般）	1,470	園庭開放こんぱす	489
一時預かり（幼稚園型）	1,616		

③ 職員の配置状況及び人財育成に関する事項

(単位：名)

認定こども園ゆめな		園長	主幹	保育教諭	保育補助	栄養士	調理員	看護師	事務員	運転手	計
	正規	1	2	12		2		1	1		19
	固定給				1		1		1		3
	時間給			12	1		3			2	18
	計	1	2	24	2	2	4	1	2	2	40

学童園		支援員
	時間給	7

人財育成・「教育及び保育」の捉え方、環境設定の工夫に個人差があるので「幼児教育アドバイザー訪問事業」や「保育クレド」を活用し検討を重ねた。

④ 当面の運営課題

- ゆめな ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領改訂の研修に参加し、ゆめなの教育課程について検討をする。
 ・子育て支援事業を地域の子育て家庭に広く周知するため、地域の保健師や民生委員・小学校等との連携を深める。
 ・今後少子化が進む中での、利用児童の受け入れについて検討する。
- 学童園 ・配慮の必要な児童に対する支援が必要となるため、内部研修の充実及び人材の確保を検討する。
 ・園舎整備及び今後の事業継続について法人と検討を行なう。

2) 保育所

(1) 松永東保育所

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

●地域に根ざした運営

地域行事への積極的な参加や、園外保育時に元気な声で挨拶をすることで、保育所のぞんざいをアピールし、新規入所につながり「ひよこ広場」へも多くの人に足を運んでいただいた。

障がいのある保護者の子育て支援にあたり、主任民生委員や保健師と連携をとり、積極的に関わりながら地域の子育てを応援できる体制が確立できた。

●0歳児保育の充実

保護者の育児休暇明け予約に対応できるように、年度当初から多めに職員を採用していたことで、前年度に比べ途中入所の希望に対して、はるかに多く答えることができた。

●人財育成

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項

利用児童数推移

(単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳児	4	7	8	11	11	12	14	16	19	20	20	20
1・2歳児	46	47	47	46	47	47	47	47	48	48	48	48
3歳児	28	30	30	29	29	29	29	30	30	49	29	29
4・5歳児	52	52	52	51	51	51	51	51	52	51	52	52
合計	130	136	137	137	138	139	141	144	149	168	149	149

③ 職員の配置状況及び人財育成に関する事項

育休予約の児童が入所するのに伴い、保育士の確保をしていかなければいけないのが大変だったが、採用活動に力を注ぐことによって充足できた。

3月末の職員配置

所長・主任保育士・看護師・保育補助・調理員・子育て支援拠点担当 各1名

栄養士 2名 保育士 28名 合計 36名

職員研修

保育協会・保育連盟等の研修に参加し、職員それぞれの専門性、スキルの向上を図った。

所内研修ではクラスにおける課題を出し合い、職員同士でディスカッションすることで解決の糸口を見つけ、発達に課題のある児童については「ゼノ」こども広場まつなが

④ 当面の運営課題

少子化がさらに加速する事を見据え、研修等を重ねてスキルアップを図ることで、地域から必要とされる保育所になるよう、職員が一丸となり努力を続けていく。

4. 地域公益事業

1) 主な取り組みに関する事項

- (1) 居場所づくり：季節行事や誕生日会を通じて、何でも話せる場所を目指した。
- (2) 子ども食堂：簡単な調理を学び、作ること、食べることの大切さを伝えた。
- (3) 学習支援：宿題や興味のあることから、少しずつ学習意欲の向上を図った。

2) 子どもたちの状況

(1) ルールづくり

調理実習や食事、遊びや行事を通じて、子どもたちが思いやりや譲り合いの心を持てるようになり、食事は残さない・捨てない、学習時間は大きな声を出したり、走ったりしない等のルールづくりを行った。

(2) 自分が認められる場所

誕生日会等を通じて、自分の存在を認めてもらえ、みんなから祝ってもらえることで自分自身を感じ、自分自身を認め、相手を思いやることができつつある。

(3) 安心できる場所

7名の子どもたちの参加がほぼ定着した。Come 叶夢ハウスが「居心地のいい場所」であり、ここにいる大人は信用しても良い存在と感じていると思われる。

3) 活動に関する事項

(1) Come 叶夢ハウス活動時間

	9:00	10:00	10:30	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
	18:00									
職員	出勤・朝礼・準備・迎え			活動開始（調理、学習、行事等支援）				送迎・終礼		退勤
Vo				活動開始（調理、学習、行事等支援）				終礼・退勤		
子ども				調理実習・食事		学習・遊び		終会・帰宅		

①活動日 毎月第2・第4日曜日

②活動時間 11:00～16:00（子どもの活動時間）

(2) Come 叶夢ハウス活動実績（*シミュレーション3回分を除く） 単位:名

実施回数	子ども		職員		Vo		見学者	活動内容 (調理実習、学習、行事等)
	延べ	平均	延べ	平均	延べ	平均		
17	85	5	90	5.3	107	6.3	14	誕生日会、Xmas、卒業祝い等

4) 当面の運営課題

(1) 新規の子どもたちの開拓

拠点としている松永地域の対象となる子どもたちが7～8名はいる。

この子どもたちの受け入れを、民生委員、家庭相談員と連携し進めて行く。

(2) ボランティアの確保

居場所づくりを進めて行くためには、貧困の連鎖を断ち切り、生きることの大切さや喜びを感じてもらえる支援「食べる、遊ぶ、学ぶ」が必要と考えられる。

そのための、学生やシルバーボランティアの確保が必要である。

5. その他の事業

1) 診療所

(1)「ゼノ」診療所

① 主な取り組み（重点課題）に関する事項

2017年度は経営の安定を図るため、収入の確保と支出の削減に重きをおいた努力を重ねた一年となった。

内科・精神科においては、利用者の健康状態に応じた検査を適正に実施することで診療報酬算定の安定を図った。歯科においても、これまで通りの治療や口腔ケアを実施していくことで、安定した事業運営が実現した。

いずれにしても、利用者の健康の維持・増進に重点をおき、現場スタッフと連携を図りながらその目的の達成のために全力を尽くした一年となった。

② 利用者の状況及び利用者支援に関する事項

やまびこ学園、なごみの家、沼隈地区ホーム群の利用者の通院や入院の支援や診療、健診等を実施した。

● 入院の状況

やまびこ学園：延36日（現在入院中の利用者は除く）

なごみの家：延112日

● 通院の状況

児童部：延213名 成人部：延634名

● 診療の状況

内科：延1,153人 精神科：2,239人 歯科：1,820人

● 検診の実施

11月13日、17日、21日の3日間で利用者・職員の検診を実施した。

③ 職員の配置状況及び人財育成に関する事項

医 師 3人（内科・精神科・歯科）

看護師 2人

歯科衛生士 2人

医療事務員 2人

④ 当面の運営課題

● 診療所の業務は、診療業務に関連することや法人全体の職員健診の手配、労働基準監督署への検診結果報告、各種加算算定のための利用者の健康状態のまとめなど、多岐にわたっており、煩雑化している。それらの効率的に業務が遂行できるよう診療所内部において業務効率化に向けた協議を重ねていく必要がある。

● 診療報酬の請求について、査定されて返戻を求められる薬がある。歴年に亘って返戻の対象とされているが、必要な手続をとることで、後日算定されている。国保連に問い合わせしてみると、時期は未定だが近いうちに通常の請求で算定されることとなるため、継続して請求するよう指示されていことから、根気強く続けていく必要がある（継続課題）。